

大和ハウスグループ みらい価値共創センター（コトクリエ）



■概要

大和ハウスグループ みらい価値共創センターは、2021年10月にオープンした地域に開かれた新しい研修施設である。愛称は「コトクリエ」。子どもたちから大人まで、あらゆる世代が共に学び、考え、成長する場、みらいの価値を共創する人材（みらい価値共創人材）を社会と共に育む場として建設された。



ここで研修を受けるのは、大和ハウスグループの社員だけではなく、子どもから高齢者に至るまでの幅広い地域住民、異業種の企業や研究機関の方々などであり、こうした方々の交流施設として運営されていることが注目すべきポイントである。

敷地は、大和ハウスグループの奈良研修施設跡地と奈良工場の一部敷地で、先進的な設備・体制を取り入れたDX技術、SDGs対応の仕様とデザインによる次世代研修施設となっている。国内外の人々の利用を想定し、祈祷室や性別に依存しないオールジェンダートイレなど、ダイバーシティ対応の設備も整えられている。施設の愛称となっている「コトクリエ」は、「コト」と「クリエーション」が組み合わされた造語。「コト」には、かつての都を表す「古都」、多種多様な人々を表す「個と」、未来を担う人材を表す「子と」といった様々な意味が持たせられている。

■コンセプトは「森の会所」

施設のコンセプトは「森の会所」。会所とは、室町時代の連歌

国土交通省の「サステナブル建築物等先導事業（気候風土適応型）」の採択を受けた「つくば」と「沖縄」の、地域に根ざした住まいと住まい方を、現地からオンラインにより、それぞれの設計者により紹介していただいた。

またオンライン見学の後、設計者同士の意見交換を行い、それぞれの地域における環境との共生等について、日常の設計活動を通じた取組みについてもご紹介いただいた。内陸の寒暖が比較的明確な地域と高温多湿な蒸暑地域といった、異なる気候風土における住まいと住まい方について学ぶ機会となった。

（実施日時：2022年10月24日 参加者数25名）

会などの文芸・遊興の場のことで、身分や立場を超えて人が集まる場所のこと。多様な人々が集まり、議論や発表などを通じて新しい価値を生み出す場所であること、大和ハウス工業の創業者 石橋信夫氏の故郷が吉野の森であり、その豊かな生態系のように人々が影響しあい成長する場所であることから、「森の会所」を建物のコンセプトとしている。

■奈良の地に立地している理由と1300年前の土地の記憶の継承

大和ハウス工業の「大和」は、創業者 石橋信夫氏の出身地である奈良県の旧国名「大和国」に由来している。旧国名の読み「ヤマト」ではなく「ダイワ」と読むことにしたのは、「大いなる和をもって経営にあたる」という意味を持たせるためだとのこと。

施設が立地している場所は、奈良時代の平城京の南端に位置しており、着工前の調査によると、奈良時代の下級役人の住宅跡が多く出土し、井戸の跡や器なども発掘されている。

この1300年前の土地の記憶は、それを受け継ぎ、次の世代につなげていくために建物内外のデザインに反映されている。



（上）施設の位置と平城京との関係を示す模型展示
（下）住宅跡の柱の位置をデザインに活かした床仕上げ

■施設の特徴

みらい価値共創センターは、大和ハウスグループのシンボルマークをイメージさせる曲線を多用し、二重らせん構造のような有機的な形状をしている。内部空間も、その外部の形状に従って曲線や曲面で滑らかにつながり、見通しが良く開放感がありながらも、それぞれ個別の独立した空間が形成されており、「現代の会所」に導かれていくような印象を受けた。

施設は、そのコンセプトである「森の会所」を構成する3つのゾーンから構成されている。

あらゆる人が交わる「風のゾーン」、賑わいのある「太陽のゾーン」、静寂の中で自分を見つめ直す「水のゾーン」の3つである。



ゆるやかにつながる内部空間

□風のゾーン

風のゾーンは、風のパティオを中心とし、外部空間を取りこむ中庭を介して各部屋が緩やかに接続し、建物内外の活動が広がる4層吹き抜けの立体的な空間。中心にはシンボルツリーが植えられている。

風のパティオは、外部からこの中庭に入るための通路を通ってくる風が、心地よく吹き抜けるように形状が工夫されている。また、円形の壁に囲まれているため音響効果が高く、地域住民も参加できるコンサートなども催される。

パティオに面する1階には、健康に配慮したメニューを提供するダイニングや、観葉植物とアロマの香りが特徴的なカフェが設けられている。



□太陽のゾーン

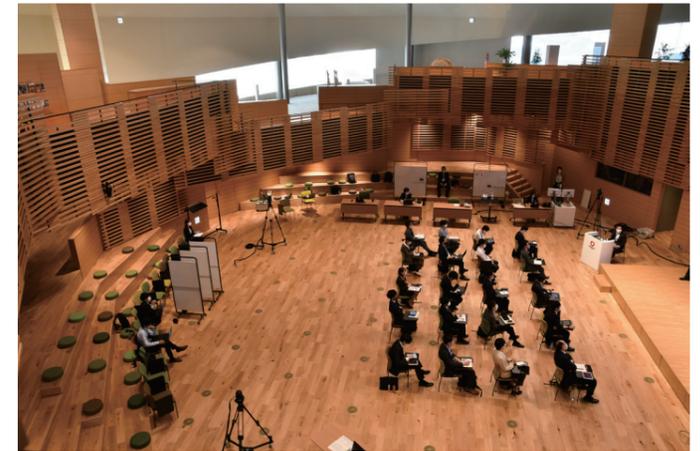
太陽のゾーンは、太陽のホールを中心に、シームレスに上下階がつながるフロア構成となった空間。トップライトから吹抜けを通じて降り注ぐ温かい光の下に人々が集い、音と熱気が共鳴するゾーン。

太陽のホールは、吉野杉など県産の木材がふんだんに使われた仕上げで、温もりのある雰囲気と柔らかな音環境が特徴のダイナミックなホールとなっている。

この天窓を開放することで空気の流れが生まれ、館内の空気を循環させている。

ホールの傍には図書コーナーが設けられ、思考のヒントが欲しいときに読むことができるよう様々なジャンルの書籍がストックされている。

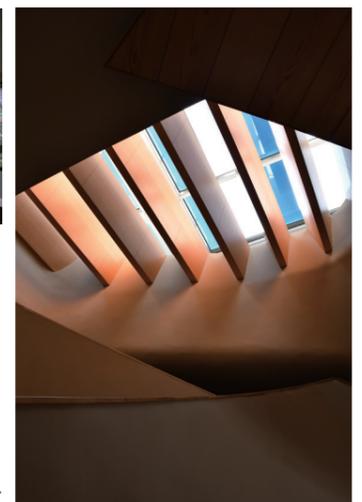
1階にはInspiration STUDIOが設けられている。このスタジオはワークショップを効率よく進めるために使われる場所。壁一面を占める大型のマルチビジョンが設置されており、映像の演出により相互理解やアイデアの創出を生み出す手助けとなる新しい研修空間となっている。



太陽のホール



大型のマルチビジョンが設置された Inspiration STUDIO



太陽のホール上部のトップライト

□水のゾーン

水のゾーンは、賑わいから少し離れた創業者の世界観を表現した静謐で清らかな空間で、「水」を起点に、より深い思考で自分自身と向き合うゾーン。風のゾーンや太陽のゾーンが「動」であるのに対し「静」のゾーンとなっている。

このゾーンに設けられた水のサロンには建設地の遺跡発掘調査で出土した平城京の古井戸が実物展示されており、1300年の歴史の重みと、未来へとつながる時の流れを感じられる空間となっている。古井戸の上部はトップライトからの光が差し込むようになっている。また、この周囲の壁は、建設地から出土した土が仕上げ材として塗られている。

2階には Biophilic STUDIO が設けられている。多くの植栽とアロマ、自然環境音、手に影ができずストレスが少ない照明などにより、深い集中が図れる研修室となっている。壁面

は全体がホワイトボード仕様になっているので、壁に文字や図を書きながら自由に議論ができるようになっている。

■ランドスケープと平城京との関係

敷地内の南端と北端にはそれぞれ庭が設けられており、北側の庭は「まほろばの庭」、南側の庭は「万葉の庭」と名付けられ、約 60 種類の植物が植えられている。万葉の庭は、万葉植物（万葉集で詠まれた植物）が植えられた大和路の原風景を再現した庭と芝生広場で構成されている。

まほろばの庭は、奈良時代の作庭手法を取り入れた水景の庭で、雨水利用として地下水に戻す「レインガーデン」と、屋根で受けた雨水を地下の貯留槽に溜めて植栽への散水などに利用する 2 つの取組みがなされている。

エントランス前の車路には何本かの白線が引かれているが、

これは、平城京の道がそこを通っていたことを示す線で、一つの四角が平城京街区の一つであることを示している。この白線以外にも、建物内には当時実際に建っていた住居の柱跡の形状が床仕上げとして表現されており、1300 年前の記憶の継承とともに、当時の街区や住居の大きさを実感し、悠久の時に思いを馳せる仕掛けともなっている。

■SDGs をふまえた環境配慮の取組み

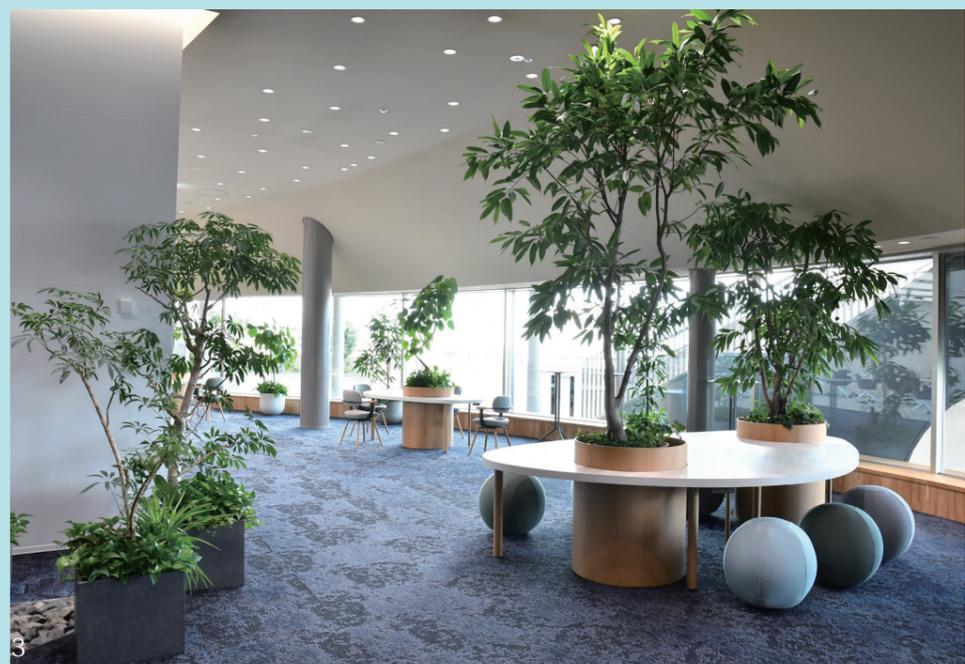
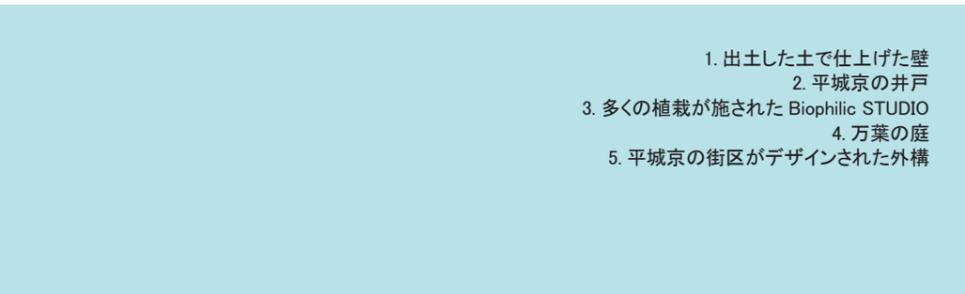
みらい価値共創センターには SDGs をふまえた環境配慮の取組みがさまざまな場所で行われている。

その一つは「オールジェンダートイレ」。出入口とは別に複数の出口を設けるなど、サインや動線を工夫することで、性別に関係なく利用者が気兼ねなく使うことができる。

その他にも、宗教や宗派を問わず、多様な文化的背景をも

つ利用者のための「祈祷室」や、子育てしながら仕事や研修を行うための「授乳室」が設けられている。

こうした様々な取り組みにより、みらい価値共創センターは国内認証の「BELS(省エネルギー)」、「JHEP(生物多様性)」、日本初の 3 つの国際認証「LEED(環境配慮)」、「SITES(ランドスケープ)」、「WELL(利用者の健康・快適性)」の合計 5 つの環境認証を取得している。



1. 出土した土で仕上げた壁
2. 平城京の井戸
3. 多くの植栽が施された Biophilic STUDIO
4. 万葉の庭
5. 平城京の街区がデザインされた外構

■環境共生住宅的技術要素

- I 省エネルギー : 太陽光発電 (100kW)、帯水層蓄熱システム「ATES (エーテス)」
画像センサーによる空調、照明制御
BEMS によるエネルギー管理や在室率などの見える化
- II 資源の高度有効利用 : 雨水利用
- III 地域適合・環境親和 : 風・光・水の導入
緑視率を計算した植物配置計画
平城京時代の遺構からの出土品と井戸の展示
- IV 健康快適・安全安心 : ダイバーシティ対応の設備

■基本データ

- 用途 : 研修施設
- 敷地面積 : 18,251.37㎡
- 竣工年 : 2021 年 6 月
- 構造・階数 : 鉄骨造 4 階建て
- 設計 : 基本計画・デザイン監修 / (株) 小堀哲夫建築設計事務所
大和ハウス工業 (株)・(株) フジタ
- 施工 : 大和ハウス工業 (株)・(株) フジタ